

動の紹介や意見交換を行い活動の活性化と拡大を図る。

・ 防犯設備士の養成

警察が行う住宅等への防犯診断を効果的に行うため、専門知識を有する防犯設備士の資格を取得させる。

・ 認知症を有する行方不明者等への対策

認知症の高齢者が関わる事案に対して適切に対処するため、認知症に関する知識や対処能力を向上させる。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内の子供の連れ去り防止や防犯ボランティア団体への支援活動に要する負担であること、また国庫補助対象事業については他の対象事業と同様の割合で国庫を充当しており県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	5,226	地域安全巡回指導教育用等消耗品、各種防犯広報チラシの作成、認知症サポーター養成講座用教材費等
役務費	768	ボランティア団体傷害保険料、防犯設備士資格取得受験料、銃砲刀剣類廃棄処分手数料等
その他	590	ボランティアフォーラム開催経費、防犯設備士研修受講料、全国地域安全運動用広報テープ作成等
合計	6,584	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ-2-(2)-③ 犯罪・交通事故防止の推進

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 - ・子供・女性・高齢者を犯罪から守るための諸対策の推進
 - ・防犯ボランティア団体等への支援及び活性化
 - ・認知症高齢者等に対する適切な対応

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H26)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
						%
地域安全巡回指導 教育班派遣回数	/	236 件	/	/	/	%
防犯ボランティア 団体数（団体）	/	1,180 件	/	/	/	%

○指標を設定することができない場合の理由

高齢者、子供及び女性を守る地域安全活動に要する負担であり、目標を設定することは困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	連れ去り防止教室（年 236 回）開催、安全・安心ステーション指定 24 団体へ活動支援、警察活動協力員 562 人による防犯パトロール等の実施及び青色防犯パトロール実施者支援などの活動により県民の安全・安心な生活を維持することができた。
令和 3 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	「安全・安心な「清流の国ぎふ」づくり」を目指す事業として、必要性は高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	これまでの取組により、防犯ボランティア団体の活動は活性化している。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	各種業務は、被害抑止に向けて積極的・効率的に実施しているとともに、経費の節減にも努めている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>これまで順調に減少してきた刑法犯認知件数は減少が鈍化傾向にあり、加えて高齢者、子供や女性が被害者となる犯罪も後を絶たず発生していることから、今後とも犯罪抑止活動や子供の危機管理能力を高める活動、防犯ボランティアへの活動支援は課題となる。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>犯罪のない安全で安心な地域社会の実現に向けて、高齢者、子供や女性が被害者となる犯罪や声かけ事案などの前兆事案に対する適切な取組を今後も継続して推進していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	